



女川温泉「ゆぼっぼ」被災後、移転再建

駅に併設 復興のシンボル

宮城県女川町の女川温泉ゆぼっぼは、JR女川駅に併設され、ウミネコが羽ばたく姿をイメージした白い屋根が目を引きまします。女川小5年のこども記者柿内葉月さん(11)と紺野六花さん(10)、今野絢華さん(10)、鈴木碧虎さん(10)の4人が、副支配人の神山勝幸さん(47)に取材しました。

ゆぼっぼは2006年に、別の場所で開催。東日本震災で被災したため、15年3月に移転再建されました。

紺野さんが「なぜ駅に温泉があるのですか」と尋ねると、神山さんは「高台の源泉が無事だった。町の玄関口、復興



ゆぼっぼの足湯に入る4人に泉質の説明をする神山さん(奥)

の象徴にしようと、駅ともにもいち早く再建され、人々を迎えました」と話しました。再開の日には、町が復興の第1段階を宣言する「まちびらき」も行われました。

1日の利用客は平日100人、土日は200〜300人ほど。鈴木さんが最近の動向を聞くと「8月12日には、307人の利用があった。町民や帰省客が多かったですね」とうれしそうです。

銭湯のようなこぢんまりとした雰囲気の特長です。「町民がゆっくりくつろぐ憩いの場です。観光客との交流にもつながっています。泉質が良く、美肌になります」と神山さん。

21年にも地震の被害を受け、旅館を余儀なくされました。神山さんが「再開を待つ人々が声をかけてくれて、ありがたかった。みんなの力を借りながら、これからも憩いの場を守っていききたい」と言いました。

取材を終えて

環境の悪化 魚で知る 柿内 葉月さん



地球環境が悪化して、女川の定番魚サンマが取れず、高級魚になってしまっていることが分かりました。サンマが大好きなので残念です。

ゆぼっぼは震災後、外国人のお客さんが増えたそうです。足湯に入れて楽しかったです。

自動で仕分け すごい 紺野 六花さん



魚の水揚げを初めて見ました。次々に運ばれ、大きさによって自動で仕分けられていて、すごいと思いました。

ゆぼっぼには、小さい子も楽しめるようにガチャガチャを置くことを提案したいです。実現したらうれしいです。

働く信念かっこいい 今野 絢華さん



魚市場の丹野さんは、仕事は大変だけれど、必要とされる場所で働きたいと言っていました。みんなのために働く丹野さんはかっこいいです。

ゆぼっぼの足湯は、湯加減が良く、気持ち良かった。来た人がゆっくりできるといいです。

水揚げの様子学べた 鈴木 碧虎さん



魚市場では、太刀魚などの知っている魚が水揚げされていました。見学できて良かったです。

震災前のゆぼっぼには、電車の到着を知らせる信号機が置いてあったそうです。今の建物にもあったら面白いと思います。